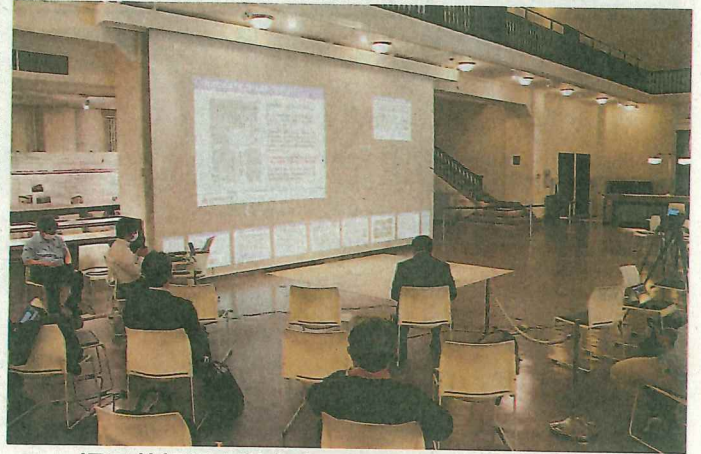


## 小樽活性化 北前船の歴史紹介

樽商大と九大大学院 初の公開シンポ



旧三井銀行小樽支店で開かれたシンポジウム

「水」をテーマにした共同研究などに取り組み小樽商科大と九州大大学院（福岡市）による初めての公開シンポジウム「港市・小樽の自然と歴史」が20日、小樽芸術村内の旧三井銀行小樽支店（市内色内1）で開かれた。両大などの研究者6人が、物流を通じた他都市とのネットワークが小樽を活性化させた歴史などを紹介した。

オンライン会議アプリを活用し、小樽や福岡の学生ら約100人が参加。はじ

めに小樽商大の高野宏康学術研究員が、北前船を通じて本州から多様な人材や物資が入り込んだ小樽の歴史を紹介。「北前船のネットワークの歴史を発掘し、今後のまちづくりにつなげるべきだ」と強調した。

九州大大学院比較社会文化研究院の鬼丸武士教授は、中国・上海市など海外の港町の地域性を紹介した上で「小樽は西洋と和式の建築物が隣り合わせて残っている珍しい町だ」と評価。他の研究者も防疫や自然環境などの視点から、港町が抱える特殊性や課題について解説した。

# 「小春六花」小樽盛り上げる

## 観光協会やFMとコラボ

### 名所などネット上で発信

歌ったり文章を読み上げたりする音声合成ソフトのキャラクター「小春六花」で小樽をPRする計画が進んでいる。制作した東京の合同会社が「地域振興に役立てたい」と企画、小樽観光協会やFMおたるなどとコラボする。観光名所を背景にしたイラストコンテストなどネット上で情報を発信し、コロナ禍が収束した後の観光振興につなげる狙いだ。

(宮本夕梨華)

小春六花は合同会社「TOKYO6 ENTERTAINMENT」(東京)が制作、3月に音声合成ソフトの販売を開始した。同社の赤迫竜一最高経営責任者(CEO)(44)は北広島市出身。ファンが作品の舞

台を訪ねる「聖地巡礼」で地方都市を活性化させたいと考え、観光都市としての魅力と物語の作りやすさなどから小樽を選んだ。

キャラクターによる観光振興に詳しい樽商大の山本真史特命准教授と木村泰知

教授の協力を得て、コラボ企画を立ち上げた。設定では、小春六花は同大学がモデルの架空の高校「小樽潮風高校」に通う2年生。この設定に沿って、小樽を舞台にした創作を募集する。

イラストコンテストは小樽運河など市内5カ所のいずれかを背景にした作品を8月15日まで募集。受賞作は市内にポスターとして掲示する。ラジオ番組制作コンテストは、小春六花をパーソナリティーにしたラジオ番組をソフトで制作し応募する。6月30日まで募集、受賞作はFMおたるで実際に放送する。

山本特命准教授は「観光で市内を巡るきっかけになり、滞在時間も長くなる」と狙いを語る。赤迫さんは「ファンと地元の人々が交流し、新たなビジネスが生まれれば」と期待する。コラボの詳細は同社のウェブサイト(<https://tokyo6.tokyo/>)を。



小樽商科大がモデルの高校に通う設定のキャラクター「小春六花」(左)たち(TOKYO6 ENTERTAINMENT提供)